



あきよし ふうた くん
(5さい)

しょうぼうしゃが すきで
よく しょうぼうしょへ
みに いるよ。おお
きくなったら しょうぼう
しに なって かじから
たすけてあげるからね。



奥春別森の保育園のおともだち



はしだ あかり くん
(6さい)

かっこいい けいさつかん
に なりたいな。どろぼう
や スピードいはんを し
た ひとを つかまえるか
らね。みんなを まもって
あげたいんだ。

がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと



もつとたくさん、子どもたちのところへ行きたい
町の紙芝居屋さんとして活躍する
フジワラ トシカズさん(48歳・美留和)

子どもフェスティバルやはらっぱまつり…。町内のいろいろなイベントで紙芝居屋さんを見かけることが多くなり、また、熱演を繰り広げているのがフジワラさんです。

「昨年の夏「虹のわまーケット」というイベントがあり、実行委員の方から紙芝居屋さんをやってほしいと依頼されたのがきっかけでした。これまで、劇団で役者をしたり、ナレーターや声優の仕事をしたことはありましたが、紙芝居は初めてです。

「実際の感想はいかがでしたか。子どもに絵本の読み聞かせをすることが大好きでしたし、仕事としてテレビやラジオの経験もあつたので、違和感なく始められると思ったのですが、全く違いました。ごく狭い空間で少人数に対してパーソナルに読み聞かせるのとも、舞台などで広範囲の方に対して芝居を行うのとも違う奥深さがあり、打ちのめされると同時にめりこみました。

具体的には、どういった奥深さでしょう。

「瞬間の雰囲気が一番大事だということ。花や木を通して、美しく潤いのあるまちづくりを推進したいと有志が集まり、設立されました。

「毎年春には、役場庁舎前の花壇整備を行っています。色の配置などを考えながら花を植えていく作業は、大変ではありますが、楽しくもあるそうです。

また、町内の花壇を対象とした花壇コンクールも毎年行っています。今年から、一般の部のほかに新たに学校の部と自治会の部を設けました。すると、昨年より90点も多い約170点の応募があつたそうです。

「年に一度は近隣市町村の花壇を訪れ、研修を行っているという会員の皆さん。代表の渡邊さんは「毎年花壇をつくっている方は、年々アイデアが豊富をつくつていますが、いろいろな方の花壇を見せていただくことで、大変勉強になっています。また、町の方々の花壇コンクールへの応募が増えたのはうれしいこと。町ぐるみでの花による美化活動や、観光客へのおもてなしの気持ち浸透してきたという表れです。」と話していました。

「今後について聞くと「花は心のゆとりと、観光や地域の活性化につながります。これからは意欲的に活動していきたい」と話してくれました。

語に入り込めなかつたりするので、お客さんの反応や雰囲気をみるため、また芝居経験も手伝って、上演中はよく動いています。体全体で演じています。

「東日本大震災の被災地でも、紙芝居の上演を行ったそうですね。

「5月に岩手県の宮古市と山田町を訪れました。たくさんの子どもたちが紙芝居を見てくれて、たくさんの笑顔に出会えたことがうれしかったです。

今後の抱負は。

「もつとたくさん、子どもたちのところへ行きたいと思っています。イベントばかりではなく、例えばお誕生会など、ぜひ気軽に呼んでほしいです。また現在、借りた紙芝居や舞台を使っているのですが、自分で絵を描き、お話を考えた、オリジナルの紙芝居を作つて演じたいです。舞台もできれば手作りたい。ほかに、お年寄りには時代劇小説の朗読をしたり、大切な仲間と芝居をするなどして、皆さんの笑いを呼び起こしたい。地域に密着した芸能に携わり、発信していくのが夢です。絵本の会おはなしはらっぱさんや図書館をはじめ、この町で素晴らしい出会いに恵まれていることに感謝しています。だからこそ夢を形にすることも可能だと思っています。」



摩周フラワーマスター協会
代表・渡邊 昇さん
会員・23人



摩周フラワーマスター協会主催の園芸講習会(27ページ参照)



春に行った役場庁舎前の花壇整備の様子

「今後について聞くと「花は心のゆとりと、観光や地域の活性化につながります。これからは意欲的に活動していきたい」と話してくれました。